

横浜ウォーターが実施する オンライン水道研修

横浜ウォーターが2020年度より実施している「オンライン水道研修」が好評を得ている。新型コロナウイルスの影響で研修の中止や縮小を余儀なくされているなかで、水道事業者や民間企業の技術継承や技術の研鑽に資することを目的に開始した取り組みで、受講者の声を踏まえて研修のブラッシュアップを図っている。1月～2月の今年度後期研修の申し込みが11月1日に開始される前に、村上誠・管理部室長と国本一郎・上下水道部上水道企画室長、加藤久仁人・同室長に研修の特徴や研修を通して伝えたい思いなどについて伺った。

水道事業に長く従事する社員が講師に

はじめに、村上室長がオ



村上氏



国本氏



加藤氏

オンライン水道研修を実施する背景について「横浜ウォーターは、横浜市水道局100%出資団体として2010年に設立し、横浜市の水道事業運営に携わった人材とノウハウを活かし、設立当初から講義と実技を組み合わせた水道技術者研修を毎年実施しており、全国各地の水道事業者や民間企業に参加いただき好評を得ています。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年度は当初予定していた研修の延期や縮小を余儀なくされ、在宅勤務やウェブミーティングが定着し始めていることを背景に、技術継承事業の一環として、水道技術者研修の講義部分を

ンライン水道研修を実施する背景について「横浜ウォーターは、横浜市水道局100%出資団体として2010年に設立し、横浜

事業者、企業の技術継承に

11月に今年度後期の申し込み



講師とプロジェクトチームメンバー



動画の撮影風景

コンパクトに、聞きやすい形にまとめた動画を配信する『オンライン水道研修』を実施することとしました」と紹介する。

オンライン水道研修は、横浜市水道局で水道事業に長く従事し、高いスキル・ノウハウを保有する同社社員を講師として、撮影、編集、配信などすべて内製で行っている。実施にあたっては、上水道企画室を中心に組織横断的なプロジェクトから覚えた『配線をどう

トチームで取り組みを進めているが、特に初年度は苦労が絶えなかったという。2021年度のプロジェク

つないだら良いかなど撮影機材のセッティングも苦労した『外の電車や救急車の音などが入ってしまうと撮り直しになってしまい大変だった』といった苦労が

2021年度からは「2020年5月に急遽作り始め、あつたと聞いています」と話す。

動画制作に関するノウハウが蓄積し、適した機材の導入も進んだことで、現在はスムーズに作業を行っている。また、こうした経験はフリカの水道技術者向

を配線する」と「水道概論」を加えた5講座を提供している。配信期間は、2020年度は6日間を年1回としていたが、2021年度からは1カ月間を年2回としている。

「水道工事施工監理」では、技術者倫理をはじめ、工事完成検査、施工計画書、施工監理の4つの講義、「給水装置」は、給水装置論に始まり、事故事例、計画論、施工、主な給水管・給水用具の5講義、「水運用」では、水道施設構成や配水方式のほか、断水操作、充水・耐圧試験、洗浄、消防水利、弁バルブ操作、事故事例など9つの講義を配信する。「配水管技術」では、送配水の基礎をはじめ、配水管線論、配水管事故事例、管路の更新と耐震化、水道施設管理マッピングシステム概要、管布設における各種工法の6つの講義、「水道概論」は、水道法等、地方公営企業法等、地方公営企業会計制度、水道事業を取り巻く現状に関する講義を配信する。

国本室長は研修の特徴について「水道事業に長年携わった講師による、経験に基づいたわかりやすい講義であること、繰り返し見られることや途中で止めるこ

きめ細かなアフターフォローなどの特徴が

研修項目は、2020年度は「水道工事施工監理」「給水装置」「水運用」の3講座でスタートし、受講者へのアンケートでの要望を踏まえ、翌21年度からは「配水管技術」と「水道概論」

とができるため、自分のペースで空き時間などにじっくり視聴できること、受講後の質問にメールで対応するなど、きめ細かなアフターフォローを行っていることなどが挙げられます」と強調する。

受講者からは「研修で出張するのが難しいのでありたい」「経験豊富な専門家の話で、自身の経験も交えながらの説明で実益になる」「配信期間がしっかり確保されているので、通常業務を行いながら自分のペースで受講できる」「組織内などの複数人での集合研修にも良い」など、好評の声が多く寄せられているという。受講者の多くがリピーターになっており、今年度から日本水道協会関東地方支部の研修メニューに加わったことなどにより、受講数は2020年度以降、毎年倍増している。

今年度後期の研修は1月6日から約1カ月間

今年度後期の研修は、配信期間を1月6日から9月3日までの約1カ月間とし、受講者から要望が多かった「設備概論」を加えた6講座の配信を行う予定。申し込み期間は11月1日から30日まで、同社ホーム

ページから申し込み。今年度のプロジェクトチームのリーダーを務める加藤室長は「オンライン研修に現地での意見交換などを組み合わせたオーダーメイド型研修に対応するなど、様々なニーズに合わせてサービスを柔軟に提供させていたことも特徴だと考えています。より多くの事業者や民間企業に受講していただき、技術継承や研鑽の場として活用してもらえれば」と今後の抱負を語る。

さらに、「コロナ禍の影響で対面での商談が難しく、なかなか新しい情報が得られないケースも多くあると聞いています。将来的には、研修とともに民間企業が有する機材や技術なども併せて配信することで、水道事業者の情報収集のお手伝いができればと考えています」と将来の展望を語ってくれた。

オンライン研修のQRコード

